



新九郎通信

発行 小田原市栄町 2-13-3 (株) 伊勢治書店 3F ギャラリー新九郎 木下泰徳
 メール配信サービスご希望の方は右記アドレスへお申込みを e-mail:kinoshita@iseji.net

忘れられない1年が幕を閉じようとしています。大きな試練を前に普段忘れかけていた「大切なこと」を誰もが考えた1年でもありました。そんな中、美しいものに出会う事で、元気をもらい前向きになれた人も多かったのではないのでしょうか。今年も沢山の素晴らしいアートシーンに出会い、アートを通じて素敵な方々と出会えた年になりました。

1年の締めくくりは、今年も「新九郎アートフェスティバル」でお楽しみください。10人の作家と素敵な音楽&ワインをご用意して、皆様のお越しをお待ちしています。

新九郎 12月の展覧会のご案内

近隣・友の会会員の展覧会情報

会期 展覧会名	見どころ
11/30 (水)~12/5 (月) 遊楽会展	南足柄市、開成町、伊勢原市 秦野市、大井町から集ったメン バーの刻字・篆刻の同好会
12/7 (水)~12 (月) アトリエ・コネコ 第15回大人クラス作品展	油彩・水彩・パステル等の作 品 14名約40点 指導：藤本因子先生
12/16 (金) 新九郎デッサン会	18:15-20:45 コスチューム、固定ポーズ 会費 1500円
12/14 (水)-19 (月) 東海道五十三次スケッ チ展	旧東海道を5年7カ月でゴール しました。その道中に描い たスケッチです。大木重美・ 塚田順正・松野光純、水彩画 70点
12/21 (水)-26 (月) 新九郎アートフェスティ バル 2011	年末恒例の7-アートフェスティ バル 若手からベテランまで精鋭メン バーの作品をお楽しみくだ さい

会期・展覧会名	会場
12/1(木)~4(日) 石塚小鳳を偲ぶ書展	飛鳥画廊 0465-24-2411
11/18(金)~12/4(日)火休 アーティスト イン レジデンス	清閑亭 0465-22-2834
12/7(水)~12/11(日) アーティスト イン レジデンス	南足柄市文化会館 0465-73-5111
12/6(火)~11(日) 第6回スケッチ展歩く・見る・描く	情報センター真鶴 0465-68-2676 今関
11/29(火)~12/4(日) クリ工房展	丹沢美術館 0463-83-9550
12/13(火)~18(日) 大久保和哉作陶展	丹沢美術館 0463-83-9550
11/29(火)~12/11(日) 和田奈緒美展	すどう美術館 0465-36-0740
11/8(火)~12/25(日) 版画による Pre Little X'mas	すどう美術館 0465-36-0740
12/13(火)~12/25(日) 朝比奈賢展	すどう美術館 0465-36-0740
11/26(土)~12/18(日) 野崎幻庵と小田原	松永記念館 0465-23-1377 郷土文化館
11/1(火)~2012/1/10(火) 広瀬玲子個展「白と色」	ナラヤカフェギャラリー 0460-82-1259 水第4木休
12/7(水)~12/12(月) うるしバッグ展	ギャラリー城山 0465-30-2950
12/1(木)~12/31(土) 驢馬(ろば)展	はげ八館 0465-22-0945

小田原怪獣散歩

若林寧人

子供の頃から大好きな怪獣で、大好きな故郷小田原の名所や風景を紹介するイラストシリーズ



蒲鉾は食品としては微妙な立場にあると思う。私も好物だがせいぜい数切れで充分だし、正直毎日食べたいとは思わない。一方例えば立食い蕎麦なんかは一切入れられていると何だか急に得した気分になったりする。思うに蒲鉾はその味よりもビジュアルで食卓を彩る食品なのだ。頑固にあの「かまぼこ型」を変えないのもそれ故だろう。食して後ではなく、見た途端に蒲鉾と認識出来なければいけない。もしハート型になったら(実際にあるのかもしれないが)それはもう蒲鉾ではないと私は断じたい。イラストは遥々海を渡ってきた怪鳥が早川漁港の有名蒲鉾店看板に引寄せられて羽を休めている図。これを東京で展示した時とても受けが良かった。それほど小田原名産蒲鉾は日本中に知られているという事だろう。

だ。頑固にあの「かまぼこ型」を変えないのもそれ故だろう。食して後ではなく、見た途端に蒲鉾と認識出来なければいけない。もしハート型になったら(実際にあるのかもしれないが)それはもう蒲鉾ではないと私は断じたい。イラストは遥々海を渡ってきた怪鳥が早川漁港の有名蒲鉾店看板に引寄せられて羽を休めている図。これを東京で展示した時とても受けが良かった。それほど小田原名産蒲鉾は日本中に知られているという事だろう。

新九郎アートフェスティバル 2011

Merry X'mas 音楽の夕べ&パーティー

ヴァイオリン、ギターによる音楽の夕べ

2011年12月23日(金・祝)

開場 17:30 演奏 18:00-19:00

パーティー 19:10-20:00

(作家を囲んでの歓談をお楽しみください。)



ギター
永倉功



ヴァイオリン
梅本加奈子



ギター
穴戸忠夫

[参加費] 2000円

★前売チケット取扱い 伊勢治書店本店 1F カウンター

〒250-0011 小田原市栄町 2-13-3

新九郎

伊勢治書店 TEL0465-22-1366

新九郎アートフェスティバル2011 作家紹介



【飯室哲也】

今回は、空間の中から派生したシリーズの、グリーンの中から、ペインティング作品を展示します。このシリーズも十年近く続いています。旧作の油彩から最近の版画系の小品を、十点ほど出品予定しています。



【柿沼朋実】

今年は大きな震災があり、たくさんの犠牲者、被害に遭われた方、そして原発の脅威に脅える、悲しく重苦しい一年でした。そんな一年の締めくくりを、ひと時の間でも気の休まる時間として、作品で和んでいただければ嬉しいです。



【祖父江典子】

花や自然をテーマに油彩画を制作しています。カメラや写真が好きで近所の草花を撮影しています。カメラが写し取る光と色、油彩画で表現できる空気のゆらぎ。どちらも影響を与え合って作品になります。



【高橋雅和】 ある画家の言葉に「現実ほど抽象的なものはない」と言うものが、ありますが、わたしの絵、作品はその言葉の指し示す方向と類似し、日常のある側面を凝視していて抽象的な記号が、支持体に現れ出た、とある現実なのです。また、意味や特徴を問う楯と言うのでもなく、呼吸する如く作業の中で、何かを感じられるもの、その出現を静かに、待っているものなのかもしれません。



【二宮宗子】

みる人が、懐かしく感じるような、また家に飾ってもらおうと、ほっと出来るような作品を目指して制作しています。



【ひでひこ】

今回、版画を制作しました。3年間、温めた作品です。題名「おんな」君はどんな「おんな」なのだろう？何を見て、何を感じ、どこに向かうのか？君のいない時間に君を想う。



【松浦延年】

「現代アートは過去の殻を破り、新しい概念や手法を生み出してきたと信じたいが、一体何を構築したのだろう。自己の奥底に存する動じないものによって、描くことで自ら感動することのできる画家でありたい。」



【横井山泰】

フランスから帰国して間もなく、小田原で滞在制作をした。海外作家との共同生活、小田原文化ツアー、いままで知らなかった小田原を知ることができた。どんな日常のなかにも、求めれば発見がある。どこにいても、新鮮な発見を描きたい。



【伊志良杏子】

好んで使うモチーフは、空、雲、星、木や森です。心に浮かぶイメージを形にする制作、それ自体は大変内向的な作業ですが、作品は、イメージが外に向かってどこまでも拡がるような物を造りたいです。

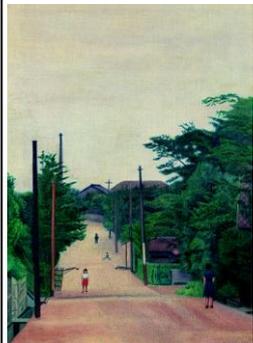


【鈴木隆】

「昨年に引き続き、寒い時期に制作する陶器と磁器による灯りを中心に出品致します。温かな光をお楽しみくださいませ。」



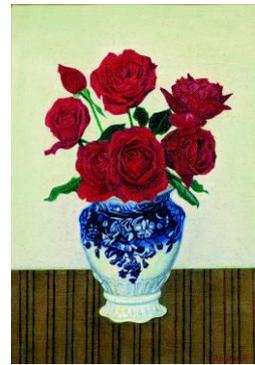
長谷川湊二郎展 **あの猫に会いたい** 入場料/一般 500円 (前売 400円) 大高生 300円 : 伊勢治書店全店でカット販売中!
2012.1.7土~1.30月 松永記念館 9:00-17:00 以下に OMP 会員の「私の好きな湊二郎」を掲載します。



「荻窪風景」

足袋と下駄を履き、大きな麦わら帽子をかぶり、よれよれのズボンをはき、現場にイーゼルを立てる。周りには、デモ隊、美しい女性、子供、紳士など、様々な人が、行き交い、話しかけてくる。そのような、ざわめきを拒絶するでもなく、迎合するでもなく、ユーモアを交え、あたたかく受け入れる。しだいに絵に没頭していくと、まるで、アトリエに居る様な状態で絵は進む。この荻窪風景も、そういった日常の中から制作されたものだろう。27歳でパリに

行った時、芭蕉と蕪村の句集を持っていった。日本の自然を前に、油彩による奥ゆきのある光の表現で、未知の領域を切り開いていくという志をたてた。彼は、風景を目の前にして描くが、決してもの自体を描いているのではない。現実の風景が美に輝いているという感動を描くのだ。だからこそ、詩と音楽が重なった様な、静謐で画品のある宝石の様な絵画が生まれたのだろう。彼はいう。「よい画は、人間の美しい魂の匂いがする。それが人類の持つ最高の宝である。」 住谷重光



「赤い薔薇」

私の一番好きな花は薔薇である。その優雅な香りも 幾重にも重なる花びらを湛える姿も 大好きだ。中学校の美術で静物画の授業があった。ぜひ 大好きな薔薇を描いてみたいと 題材に選んで画用紙に向かった。デッサンは先生に誉めてもらった。我ながら上出来。だが 自分にしてはデッサンの状態であまりに良く描けていたので(笑) 塗ったら失敗する、そんな気がして、そのまま切っても進まず時間切れ。先生から 思い切って塗ってみると 何度も言われたが ついぞ 色は乗らなかった。中学生にしては生意気で考えすぎて頑固だったと思う。長谷川湊二郎作品の中にも私の大好きな薔薇を描いた作品がある。私の生まれた翌年 1964年に描かれた「赤い薔薇」は 白に青い紋様の花瓶と赤い薔薇の色のコントラストが なんとも素敵な作品だ。翌 1965年作品「薔薇」も同じ花瓶に薔薇の花が活けてある。いかにも特別でない、日常の中の風景としての絵がそこにある。もしあの美術の時間に戻れたなら 生意気で頑固な中学生の私にこの「赤い薔薇」を見せてあげたい。もしかしたら固い心が緩んで モノトーンのデッサンに色が灯ったかも知れない。「赤い薔薇」を眺めながらそんなことをふと思った。

鈴木敦子

1年のこと

今年はほんとうに色々な事がありました。特に東日本大震災は大きな衝撃でした。新九郎では3月11日夜デッサン会でしたが中止、3月19日の東京アートめぐりも中止しました。翌週からは停電、計画停電の予告、実施されるのかしないのか不安な状況の中、お客様も例年の1/3から半分ほどしかなく、開催された方には大変厳しい日が続きました。

そんな中、小田原では場としての魅力で片浦中学校と清閑亭が注目されました。「片浦中学校であそぼう」は若い地元のガラス作家が廃校になった母校を訪れ、ここでアートをやりたいと思い、その熱意により行政を動かして実現したものです。参加作家も若く、そのエネルギーにより会期中 951 人もの入場者がありました。又地元の若い女性が原発を扱った「ミツバチの羽音と地球の回転」というドキュメンタリー映画の上映会を開催し、1日3回上映で300人以上を集めました。「ミツバチ…」は別会場で、9月に小田原映画祭でも上映され、平日夜1回の上映で130人を集め原発に対する市民の関心の高さがうかがえました。明治期、黒田長成侯爵の別邸であった国登録有形文化財・清閑亭では、日本画の作家による「ウメ子イン清閑亭」、地元作家による「Art Now in 清閑亭」、街なみ再発見！展より生れた「清閑亭スケッチ展」、日本・海外作家12人による「アーティストインレジデンス展」等のアート展が開催された。他にコンサート、お茶会、講演会等多彩な催しが開催され、小田原の新しい場としての魅力が評判を呼んでいる。来年1月には松永記念館で、小田原市とおだわらミュージアムプロジェクトの初の官民共催による「長谷川湊二郎展」が開催される。昨年平塚美術館始め全国四つの公立美術館を巡回し、評価の高くなっている画家である。今回は38点と作品数は少ないものの主要作品がほぼ入っており、初期から晩年までその芸術世界を味わえる内容になっている。本来美術館で開催される質の高い展覧会であり、これも小田原では初めての試みといえる。この機会にぜひ多くの方々にご覧いただきたい。◎